

平成23年度 第2回新宿区産業振興会議 議事要旨

【日 時】 平成24年2月6日（月） 午後3時～5時

【場 所】 BIZ新宿（区立産業会館） 多目的ホール

【出席者】 委 員：植田浩史、河藤佳彦、川名和美、松尾武司、下吹越一孝、渡邊裕晃、志村一夫、加藤仁、富田篤、益田佳代子、酒井学雄各委員

事務局：加賀美地域文化部長、小沢産業振興課長、荒井産業振興係長、松波主任主事、後藤産業創造プランナー

【欠席者】 河島正日、奥山龍一各委員

【傍聴者】 2名

【内 容】

1 開 会

○植田浩史会長あいさつ

愛媛県東温市で中小企業振興の条例を策定する取り組みが始まっていて、現地へ行ってきた。地域の雇用を守り、地域の発展につなげていかなければならない。そのために中小企業が元気になってもらわなくてはいけないということで、商工会、同友会、市役所が一体となって取り組んでいる。全国でそういうことが現れてきていて、先に条例をつくったこの新宿区がモデルになり、中小企業にとってプラスになるような動きを作っていきたいと改めて実感した。

2 委員の紹介

第1回会議欠席委員が自己紹介をした。

3 副会長の指名

新宿区産業振興会議規則第4条の規定に基づき、会長が河藤佳彦委員を副会長に指名し、委員の了解を得た。

4 議 事

(1) 第1回産業振興会議の確認

資料1に基づき事務局より説明をし、議事要旨をホームページに公開することの了解を得た。また、今後、議事要旨は事務局がまとめたものを会長が確認し、速やかに公開することの了解を得た。

(2) 産業振興基本条例と区の施策

資料2に基づき事務局より説明をした後、意見交換を行った。

○主な発言内容

- ・「区と関係機関との連携」は、資料に記載されている多くの組織、サービスへのアクセス方法が認知できない。これがもう少し展開されないと、連携という文字がそのまま独り歩きしていくのではないかと。
- ・業界の問題を解決する仕組みを、区や金融機関と一緒に考えていきたい。話し合いの場を多く設けてほしい。
- ・産業基本条例が施行され、商店街に対する区の支援体制が整ってきているが、受け皿ができていないことに不安を感じている。
- ・西武線の中井駅を中心に“染の小道”という催し物を、染色協議会と地域のコミュニティの方たちや、一部の商店の方々で行う。中井のまちを、「染め」という一つのキーワード、核にして、活性化につながっていくようなイベントに持っていきたい。
- ・新宿区は非常に多方面にわたったまちなので、全部一定の、一つの網にかぶせるということだと非常にもったいない。一生懸命やっているところから一つずつという形がいいかと思う。
- ・商店街に空き家ができると、コンビニエンスストアやファミリーレストラン、100円ショップなどが入ってくる。そうすると“まちのアイデンティティ”がなくなっていってしまう。わざわざ新宿に来る、どうして新宿に来るのかというまちづくりをしていかなければいけないと思う。
- ・時代の変化やビジネスモデルの変化など、変化を先取りしてビジネスをやっていかないといけなくなっている。政策には一定の計画性が必要だと思うが、衰退する産業よりも、伸びる産業あるいは得意分野を伸ばす政策でないと、均等にばらまくような政策では効果が得られないという印象を持っている。
- ・新規事業がどのようにスタートし、どの部署のどのような人が、どのように調べて、どのような事業を立案していくのか、そういう背景を是非知りたい。平成24年度の新規事業はこれだけなのか、今後も着々とつくっていくのか、ある

いは新規事業として民間の知恵を借りるような方向があるのか。例えばやり方として、民間の方から産業振興に関連する事業を事業プランとして募ってみるとか、あるいは新しく貢献するためのNPOをつくりたいとか、コンテストをやって優秀なものに関しては、創業支援センターを優遇で使えるとか、そういういろいろなやり方がまだまだあるかと思う。

- ・経営学や心理学になると必ず出てくるマズローという欲求段階説を唱えた学者がいるが、欲求は五段階あって、その欲求の充足を求めて人は行動するという。組織は人間が集まっているので、それは組織であっても同じである。これから先5年後、10年後はどうなるのか、したいこと、したくないこと、5年10年あると戦略的に物事を考えられる時間的な余裕がある。そこへ行くのに道りが険しくてもいろいろと努力していくことが必要である。
- ・異業種交流や勉強会で、いろいろな方とディスカッションすると、自分の至らなさや相手のすごさが見えて、自分もやらなくてはと思う。この産業振興会議、これからできる専門部会、中小企業の部会で、欲求を刺激しながら皆で一緒に高めあっていけたらいい。関係機関との連携としていろんな交流会をやっているとのことだが、交流会をやるのは意味があると思う。しかし1回会っただけではわからないことが、何回も会うといろいろな意見や相手の良さ、自分とうまく関わるとコラボできるかというのが見えてくる。高田馬場創業支援センターを拠点としてやってもいいのではないか。
- ・前回の議事録を読んで、何をやるかというのも重要だが、個々人が何をやっていくかということがより重要だと感じた。ただ、本当に現場が何を求めているのか、把握できていない。ヒアリングなど、何らかの形でやっていかないと、おそらく優先順位つけられないままで雑多な議論に終わるのではないか。
- ・行政の会議では公平性というものが先に出てくることが多いが、どこに優先順位を持つてくかという声が出たのは素晴らしいことだと思う。やはり何をやるかというのは、会議室の中で決めるだけの事ではなく、誰がやるかという担い手がすごく問題だと思う。もし交流会をやるにしても行政が主導するというよりも、民間の中でこういった積極的な繋がりを持つてするような仕組みを作るといことが一番大事だと思っている。交流して何か新しいものを作り出していこうという情報交流の場を作るのは事が非常に重要だと思うし、また行政がそういう場を作るということは、行政がやっている場所に来ているのであれば、ある程度フィルターにかけられているのではないかと皆来てくれるだろうから、そういう場所作りというものが必要ではないかと思う。
- ・高田馬場創業支援センターの取り組みが、ものづくりと別のものであるとは捉えていないし、むしろそれをどのように地域のものづくり等と結びつけていくのが大事なのかと思っている。人材育成のためのセミナーをする、交流の場を作る、コーディネートするなど、地域の中の拠点として支援センターを捉えていくことが大事なのかと思った。
- ・キーワードとして出た、地域ブランド戦略、地域にあるいろいろなもの、ものづくり、商店街を結びつけることができるということを当たり前を考え、皆で提案していくということが大事なのではないか。地域の個性というものを今いろいろな人が求めている。
- ・施策の立案について、産業振興会議そのものが施策の提案の場であると考えている。この産業振興会議での意見や提案を施策に反映させていくことが、市民参加の産業振興のひとつのあり方ではないか。
- ・条例の精神に基づいて、また今日出てきた意見に基づいて、具体的にどう展開していくのか、委員から具体的な意見をもっと出していただき、区は我々の意見を反映させる形で考えていただきたい。

(3) 専門部会について

専門部会の設置目的、テーマ、進め方、スケジュールについて事務局より説明をし、テーマごとの委員構成を決めた。

テーマ：「商店街」「中小企業」「施設」

5 次回日程について (予定)

産業振興会議 (平成24年度)

日 時：平成24年5月7日(月) 午後3時～5時/会場：BIZ 新宿 多目的ホール

〈参考〉専門部会(商店街) 日時：平成24年6月11日(月) 午後3時～5時/会場：未定

専門部会(中小企業) 日時：平成24年7月中～下旬/会場：未定

6 閉 会